

宗像市市民参画等推進審議会

第2回第2次宗像市市民活動推進プラン策定専門部会

(会議内容要点筆記)

日 時	平成31年1月31日（木）9：00～
場 所	宗像市役所 301会議室
委 員	■佐藤靖成 ■種田明美 ■福岡佐知子 ■東博子 ■山田明（五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ協働推進課（中野、中脇、平川、神）

はじめに

コミュニティ協働推進課課長中野からあいさつ

本日は、第2次市民活動推進プランの骨格や名称について事務局から提案させていただく。現行の第1次市民活動推進プランは、平成25年から7年間のプランとして策定され、第2次プランは、平成32年からさらに7年間のプランとなる。これから先の時代を見据えたプランにしたい。ぜひ皆さんのお知恵をお借りしたい。

1. 前回議事録の確認

事務局から、配布資料に基づき説明

《質疑応答等》

なし。

2. 公民館の現状と課題について

事務局から、配布資料に基づき説明

副会長から補足

- ・文科省の調査によると公民館の利用者数が減っている原因是、利用したいというニーズが減っているという訳ではなく、公民館で開催されている講座の内容が、利用者のニーズに合っていないのではないか。社会教育調査では、公民館において「市民意識・社会連携意識」に関して学びたいニーズが高いにも関わらず、「教養の向上」に関する

講座が多い。「社会連携等」に関する講座を強化すると、利用者が増えると思われる。

- ・社会教育主事の削減に関しても、ニーズが減っている訳ではない。寧ろニーズが増えているが、行政が財政的な面などで配置できない現状がある。現在、文科省では「社会教育主事」改革に取り組んでおり、2020年から社会教育士（仮称）という資格が創設される予定である。
- ・鹿児島県龍郷町の取組みは、地域住民が中心となって社会教育に取り組んでいる事例として全国的に注目されている。
- ・認知症予防については、大川市の永寿園が全国的に注目されている。特養に公文式を導入して脳トレ運動を行っている。民間と企業が連携することで効果が上がっている。企業との協働により効果が出ている成功例である。

意見

- ・1次プランには、社会教育に関する事を重点的に取り扱っていないので、プランにどのように組み込んでいくか検討が必要である。
- ・宗像市は自治公民館間の規模や活動の差が激しい。宗像市においては、社会福祉協議会なども活発に地域福祉に取り組んでいる。配布資料の「公民館の現状と課題」のP8で課題として指摘されているように、高齢者福祉に対するニーズが高まっている。厚生労働省も地域包括ケアの重要性を認識している。宗像市も各地区に地域包括センターを設置し、コーディネーターを入れて施設との連携を図っている。高齢者福祉について地域の人たちが自分たちの問題として取り組んでおり、資料のP9にある連携が宗像市でも出来ていると感じる。すでに宗像市で福祉分野などにおいて成果が見えている中で、どういった切り口でプランに落とし込んでいくべきか検討が必要である。
- ・福岡県で取り組んでいる社会教育は、青少年育成に関することが多いようである。
- ・宗像市は教育委員会ではなく、市長部局に生涯学習の担当を置いている。また、宗像市では、市民参画等推進審議会が社会教育委員の役を担っている。社会教育については、教育委員会と入り合わせる要素が多い。

事務局

福岡県では、青少年育成の案件が多いが、全国的な傾向はどうか。

副会長から回答

福岡県では、アンビシャス運動の関係で、青少年に関する案件が多い。本日の配布資料にあるように、国の流れで、県でも生涯学習や社会教育の位置付けをどうするか今議論がなされている。再編された文科省の総合教育政策局に属する課の名称からは社会教育という言葉が消えたが、社会教育を基盤とすることは変わらないので、今後、社会教育の方向性や取組についても具体的に検討すべき。

3. 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の進行方策について（答申概要）

事務局から、配布資料に基づき説明

本資料及び先ほどの「公民館の現状と課題」の資料を参考にし、プランを策定したい。

《質疑応答等》

なし。

4. 市民活動推進プラン策定目的等

事務局から、配布資料に基づき説明

第1次プランの目的とその前身の生涯学習プランの目的を踏まえて、第2次プランを策定したい。また、市民参画や協働については、「宗像市市民参画、協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例」を意識しながらプラン策定にあたりたい。

《質疑応答等》

なし。

5. プランの体系について

事務局から、配布資料に基づき説明

《質疑応答等》

（意見）これまでのプランと切り口が変わっている。

（意見）旧プランから新プランになったところで、「企業」が「事業者」となった意図は何であるか。単位として、家庭、コミュニティ、企業があり、この3つの協働がうまくいっていないという現状があるので、企業が大事なのではないか。

（事務局から回答）大学連携の事業者等の中に、大学や企業が含まれる。マスターplanとの整合性も合わせて整理していきたい。

（意見）文科省ではコミュニティスクールについて取り組みを進めようとしている。

　　コミュニケーション協働推進課だけでなく、教育委員会とのすり合わせが必要だと感じる。

（意見）新プランの体系について、「③各分野別の取組」と「④暮らしの中での取組」はどちらも取組だが、③は具体的で、④は理念的だと感じた。
　　家庭生活では、子育て支援、特に学童・放課後支援の問題が大きいので、「子育て支援」を具体的に入れてはどうか。

「②市民参画・協働のまちづくりの基本的な考え方」と、「③各分野別の取組」の間に、「現状と課題」の総括を入れた方が見やすいのではないか。

(事務局から回答) 生涯学習を含めた地域課題の解決に地域の方々が取り組める土壌がやっとできてきた。本プランを改めて策定しようとしている。

委員が言われるように、いろいろな課題があるが、個別の問題について個別のプランがある。どこまで本プランに入れるかがポイントである。

(意見) 宗像市は、就学前の子育て期に対するサポート事業の実施、12地区での子育てサロンの実施など、子ども関連のプランを策定し、子育て支援に力を入れている。地域の社会的課題として子育て支援は大事だが、他のプランとの整合性も大事である。庁内で棲み分けをしてほしい。

(事務局から回答) 審議会でこういった内容も答申していただければと思う。

(意見) 地域の方が協働で取り組む「地域創造ビジネス」は大事だと思うが、プランのどこに入るのか。

(事務局から回答) 大学等との連携の中に入れることを想定している。

(意見) 私は宗像に住んで10年経っていないが、一市民として市民参画・協働の土壌ができてきたと実感している。地域と行政の壁がなくなってきた。行政にこういったことをしたいと持ちかけるとコーディネートしてくれる。市民と一緒にやれること、若い人たちがしたいこと。行政ありきでなく、気持ちで動けるところで活動している。

将来像も大事だが、そこに行きつくまでの小さなステップの積み重ねが大事だと考える。

(意見) 人が出会うことで、新たなことが生まれる。交流の場が宗像でも生まれてきている。

(意見) 宗像市は、色んな人が活動しやすく人が際立って見える。自分の住んでいる北九州市は、5市合併後、かなりの年数が経過しているが、未だに5市当時の状態を引きずっており、市としての方向性が見えづらい。まとまりづらく、動きづらく、市内の周りの事業所の情報を知らないことがある。

宗像市ではそういうことがなさそうである。宗像市には可能性がある。課題があつたらすぐに対応する力がある行政だと感じている。

(意見) 人口が10万人弱だから市民と行政が話をしやすいというのはあるかもしれない。

(意見) 何か新しいことを生み出そうとするには、行政の人人が外に出て市民が何か不自由に感じていることを知る必要がある。

(意見) 今、宗像市でバー洋子という毎月1回1品持ちよりで宗像の食や市外の食などを通じて宗像のことについて話すイベントが行われている。空き家の活用にもなっているし、こういうことがあると分かる。

赤間宿の橋口家の家主は、市外に住んでいるが、月1回のイベントのときには来て開いてくれる。

(意見) バー洋子は、市民主体でやっている。市の職員もアンテナを立て一市民として参加し、そこで知り得たことを行政に活かしてほしい。距離も近づいて顔の見える行政になっていくのではないか。

(事務局から回答) 今議論があったこともプランに取り入れていきたい。作ったプランを使ってもらえるようにしたい。

(意見) 北九州市で、NPOと企業の協働が進んでいる。そのきっかけは、「知り合えたから」である。協働のまちづくりの基本は「出会うこと」であると思う。

(意見) お互いの顔の見える関係性が大事だと思う。

6. プランの名称について

事務局から説明

プランの名称は、分かりやすさや関心・愛着をもってもらえるようにすることが大事だと考えている。市民に、読んでみようと手にとってもらえるようなものにしたい。

サブタイトルは固いものでもいいと考える。また、第1次プランの策定時の経緯も踏まえながら考えたい。

《質疑応答等》

(意見) 宗像市で市民参画条例ができたときには、市民活動交流館などの市民活動の拠点施設もなかった。

前回プランを作る際、団体から色々な意見をいただき、市民活動をどうするかが重点的になっていたが、「市民活動推進プラン」という名称にすると、市民活動をしている人のためだけのプランというイメージがある。市民みんなのための「協働のまちづくり」のプランにしてはどうか。

(意見) 「市民全員がまちづくりを担う一員なんだ、ここに行くよ」と誰にでもビジョンが伝わるタイトルにしてはどうか。

(意見) 漢字は少ない方が、柔らかくていい。

(意見) 外国人の方も増えているので、「ムナカタ」とカタカナで入れると、より広く浸透するのではないか。

(意見) どうしてひらがなでなくカタカナなんだと、関心を持ってもらえる点が新しい。

(意見) 元号が変わって時代も変わるので、未来志向的なものにしてはどうか。

(意見) 「ムナカタ」を使って造語にするのもありなのでは。

(意見) 市外の人には「宗像」が「むなかた」と読めない人もいる。

(意見) やわらかいタイトルがメインに来て、サブに固いタイトルがくる方が関心をもってもらいやすいのではないか。

- (質疑) 宗像市にはイメージキャラクターはないのか。
- (応答) 商工会が作ったキラリ姫はいる。
- (意見) シンボルマークみたいなものがあると便利である。イメージする図形があると身近になる。
- (意見) 次回の会議で引き続き協議させていただきたい。

7. 答申イメージ

事務局から、配布資料に基づき説明

本日と前回いただいたご意見をもとに答申案を作成し、次回の専門部会で内容を見ていただき、ご意見をいただき、修正したものを全体の審議会でご確認いただきたい。

《質疑応答等》

- (質疑) 次回、宗像市の現状と課題が出るのか。
- (事務局から回答) 実際に、プランを作っていく中で入れる予定である。
- (意見) 答申には、「ここはできて、ここができない」という文言は入れないのか。
- (事務局から回答) 答申にプランの骨格やプランを策定するうえで重要なポイントなどを入れていただきたい。具体的な目標数値などは、プラン策定の中で考えていく。

8. その他

事務局から事務連絡

次回の専門部会は、2月末～3月上旬頃に開催し、その中で答申案を固める予定である。専門部会で出た意見をもとに修正し、3月18日の人まち事業報告会時に開催する審議で全委員に共有させていただきたい。

= 散会 =